

最近の道内経済動向

- 道内景気は、新型コロナウイルスの影響を主因に依然として厳しい状況にあるが、一部に底離れの動きがみられる。
- 先行きは、個人消費の緩やかな持ち直しなどに伴い、全体としては徐々に上向いていくとみられる。

(注) 基調判断は、2020.10.22時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(8~9月実績が中心)。

●個人消費は底離れしている

8月の主要6業態別小売店販売額(全店)をみると、百貨店やコンビニエンスストア、家電大型専門店が前年を下回ったものの、スーパーやホームセンター、ドラッグストアが前年を上回った。また、8月の乗用車新車販売台数は11ヵ月連続で減少したものの減少幅は縮小。業態によって明暗が分かれているものの、全体として底離れしている。

●観光は厳しい状況にあるものの、底入れしている

外国人入国者数(9月)は、前年比▲100.0%と12ヵ月連続で前年実績を下回った。一方、9月の来道者数(国内交通機関経由)は、同▲56.3%と8ヵ月連続で前年実績を下回ったものの、政府による旅行需要喚起策を受けて前月より減少幅は縮小。海外客は厳しい状況にあるものの、来道者数は減少幅が縮小しており、全体として底入れしている。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●設備投資は減少している、公共工事は堅調に推移している、住宅建築は底入れの兆しがみられる

日本銀行札幌支店の9月の企業短期経済観測調査(北海道)によると、20年度の設備投資計画(電気・ガスを除く全産業、含むソフトウェア・研究開発、除く土地)は、前年比▲8.4%となった(6月調査比修正率▲4.6%)。前年度で大型投資が一巡したことに加えて、企業業績の悪化や先行き不透明感の強まりが投資マインドを下押ししている。公共工事請負金額(9月)は、前年比13.1%増(568億68百万円)と3ヵ月ぶりに前年を上回った。発注機別別にみると、国、道、市町村などが前年を上回った。また、既発注分を含めた出来高ベースでは堅調に推移しているとみられる。新設住宅着工戸数(8月)は、前年比17.9%増と6ヵ月ぶりに増加に転じた。利用関係別にみると、持家、貸家、分譲住宅の全てで増加。また、札幌市住宅建築確認済戸数(9月)は、前年比33.9%増と2ヵ月連続で増加した。

●生産は低迷している

鉱工業生産(8月)は、前月比▲1.8%と2ヵ月連続で低下した。公共工事(トンネル)向けなどの需要増に伴い「セメント」が増産となった窯業・土石製品が上昇したものの、大規模改修に伴い「鋼半製品」が減産となった鉄鋼業に加え、定期修理に伴い「石油製品」が減産となった化学・石油石炭製品が全体を押し下げた。

●輸出は低迷している

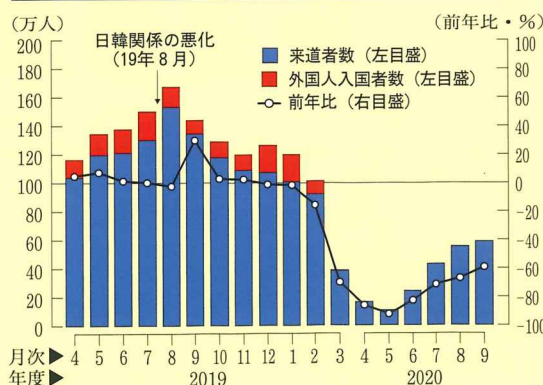
9月の通関輸出額(速報値)は、前年比▲22.1%(161億円)となり、14ヵ月連続で前年実績を下回った。品目別では、米国向け「鉄鋼」や「自動車の部分品」などの減少が全体を押し下げた。

●雇用情勢は弱い動きがみられる

8月の有効求人倍率(パート含む常用)は、前年比0.28ポイント低下の0.94倍となり、8ヵ月連続で前年実績を下回った。飲食業や観光関連産業を中心に悪影響が顕在化している。

来道者数と外国人入国者数の動向

観光入込客数について来道者数と外国人入国者数の合算の推移をみると、2020年9月は、前年比▲59.2%と10ヵ月連続で前年を下回った。内訳をみると、外国人入国者数がほぼゼロの状況が続いており依然厳しい状況にある。一方、来道者数は、政府や自治体による旅行需要喚起策を受けて減少幅が縮小。観光入込客数全体の底入れにつながっている。



(注1) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

(注2) 前年比は、来道者数と外国人入国者数の合算における伸び率。

(出所) 北海道観光振興機構「来道者調査」、法務省「出入国管理統計表」